



第 13 号

R2.7.14

文責 倉迫

建学 145 年

人権学習の取組み

前号からの続きです。

◎1年生

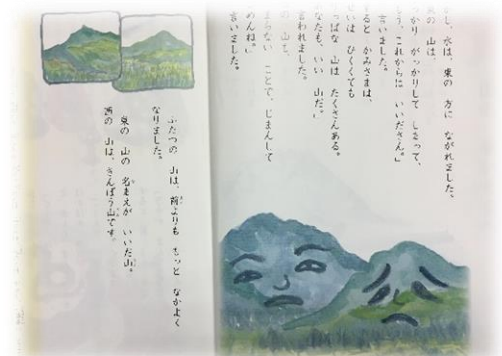
【題材名】やまのせいくらべ（くまもとのところ・郷土資料）

【学習内容】個性の伸長

だれにでもよさがあり、良さを認め合い助け合って生活していこうとする態度を育てる

【子どもたちの反応】

- ひくくても、たかくてもどっちでもいいんだよ。
- もうじまんしないよ。けんかしないでなかよくしよう。
- けんかしちゃったな。じまんしちゃったな。ひくくてもたかくてもともだちだよ。
- これかもなかよくしていこう。



道徳教育の郷土資料「くまもとのところ」東「飯田山」西「金峰山」

◎あおぞら

【題材名】みんななかよく（じぶんクイズ）

【学習内容】すきなものやすきなことばなど、自分に関することをクイズにして出題することで、友だちに答えてもらう喜びを味わう。クイズを楽しみながら、友だちへの理解を深める。

【子ども反応】

- 「〇〇が好きだと思うな。だって、この前〇〇の話をしていたよ。」と、友

だちのふだんの様子から、クイズの答えを考えて楽しんでいた。
○出題している人も、自分のことを話してもらってうれしそうだった。

◎6年生

【題材名】心づかいと思いやり（思いやりの心）

【学習内容】行為の意味という詩を読んで、思いを思いやりの変えるにはどうしたらよいかを考えることを通して、誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場になって行動しようとする意欲を高めることをねらいとした学習。

人と人々が接するうえで、どんな心構えを持つことが大切なのかを考え、これからの生活の中でどう実践していくかを友だちと伝え合い、「人権メッセージ」という形で表現した。

【子ども反応】

○行為の意味という詩を読んで、相手に対する親切な気持ちや思いは、行動にすることで初めて相手に伝わるから、思うだけではなく実際に行動に表していきたいという考えを持つ児童が多かった。人と人々が接する際に、自分の気持ちばかり優先するのではなく、相手の気持ちを考えた行動をすること、また、相手の気持ちに気付こうとする気持ちが何よりも大切だという考えが出て、共感しながら学習を進めていた。中には、自分の気持ちを優先しすぎて友だちの思いを見ていなかったと自分のこれまでの行動を振り返り、これからは思いやりの気持ちを行動に表して友だちと接していきたいという考えを持つ児童もいた。

熊本市人権教育の目標

「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになり、それが具体的な態度や行動に現れるようにすること」

学習指導員

本年度、臨時休校等に伴う「学習の保障」をサポートするため、臨時に学習指導員としてお世話になります「竹野恵子先生」をご紹介します。

先生には、これまでも学校支援ボランティアとして、子どもたちの学習指導や運動会の「五福音頭」の指導等でもお世話になっていました。本年度は、新たに「学習指導員」の制度ができましたので、これまで以上にお世話になることにしました。1日4時間ほど子どもたちの学習を見させていただきます。

竹野恵子先生

